

わかりやすい



リフォーム基礎知識

一級建築士 西田 恭子

(三井のリフォーム 住生活研究所 所長)

シニア世代の選択肢 自分サイズの家作り「減築」に注目

暮らしに合わせて家を変えていく

シニア世代の要望を、しっかり受け止めた時に「減築」という選択肢もあります。

子育て期に購入したマイホームも、子供が巣立てば、夫婦2人だけの住まいになります。家族が減り、夫婦2人の生活をするためのコンパクトな家作りが求められるのは当然のことです。

そして、やがては1人暮らしとなる日もくるでしょう。4人家族のスタイルで築かれた家は、今の2人にとっての暮らしにはマッチしているとはいえません。ライフスタイルや家族構成の移り変わりにあわせて、住みやすく変えていくべきものです。家に暮らしを合わせるのではなく、暮らしに合わせて家を変えていく。マイホームを持つ絶対的な魅力は、購入後、家を自由に換えられることです。

最小限の面積をまず想定する

家族数が変わる子育て終了後、人生の再スタートを考えたとき、「コンパクトな暮らし」に憧れ、リフォームを考える人が多くなりました。

その際、自分の生活において必要最小限の面積はどのくらいなのか、平米数で考えてみてください。ここがライフスタイルに適した家をつくる第一のポイントです。大きなスペースをポンと与えられて、そのまま使うよりも、最小限の面積をまず想定し、そこから家づくりの検討を行うほうが、快適性の高い住まいを実現しやすいものです。

そして、どんなスペースがほしくて、どんなスペースはいらないのかも話し合しましょう。間取りはリフォームで変更できます。積年の希望をかなえる間取りに設計しなおし、わが家を今の暮らしに適した住まいにつくり変えます。

減築すれば実面積は減りますが、現実には生活の動線や採光、通風、温度なども改善でき、無駄なスペースがなくなりますから、家全体が明るく使いやすくなり、かえって広やかな気分で暮らせるようになります。

家は間取りよりも、立地や価格、そして敷地形状や方位そして道路付けなどの不動産としての価値を重視して選択することが多いと思いますが、実際に暮らし始めてみた時には、シニア世代にとって自分が把握できる手の内のわが家で暮らすことが、快適生活への近道であり、望みではないでしょうか。

2階建を平屋にした減築リフォームの例

たとえば、2階建を平屋にした減築リフォームの例では、2人暮らしになったご夫婦が将来の生活を考え、バリアフリー化を実現した家へとリフォームされました。生活面では、どこにいてもお互いの様子がわかる暮らしとなりました。性能面では、耐震性と断熱性を強化し、風呂やキッチンなどの設備も一新するなど、コンパクトで機能的な家へと生まれ変わりました。

ほとんど使わない2階部分がなくなっただけで、行動動線にあった範囲で暮らす快適さを手にいれました。これこそスマートリフォームといえます。

家をコンパクトにするよさは、まだあります。家にかかるお金や時間が減るのも大きなメリットでしょう。光熱費を削減できますし、掃除に費やす時間と手間も軽減できます。生活がスリムになり、フットワークも自然と軽やかになることでしょう。

家は暮らしの延長線上にあるもの。10年後、20年後の自分たちの暮らしを夫婦や家族の間できちんと話し合い、家とともに変化していくことも想定しておくことが大切でしょう。

